

玉堂美術館

日本画家・川合玉堂（1873～1957年）の作品が、1961年に開館した玉堂美術館に展示されています。川合玉堂は日本画の巨匠で、現代の画家たちの間でも尊敬される存在です。美術館には、玉堂がたった15歳だった頃の写生から晩年の絶筆まで幅広く展示されています。川合玉堂は1944年に青梅へ引っ越し、多摩川の急流近くのこの場所に住むようになりました。

玉堂美術館には、動植物の細かい描写を含む300点以上のコレクションが所蔵されています。川合玉堂は、伝統的な日本画の技術を駆使し、現代的なアプローチで題材を描いた日本画の巨匠でした。彼の作品には人々の日常の姿がよく描かれており、そこにスケール感を与え、物語が加えられていました。美術館には、季節に見合った作品が展示されています。

美術館には、川合玉堂のスタジオのレプリカがあり、大きな画架には描きかけの作品が置かれています。スタジオには、プロ用のブラシ、塗料入れ、パレットなどが置かれています。

スタジオからは、向こうの川から運んできた岩で作られた、手入れの行き届いた枯山水の日本庭園を見渡すことができます。大きなカエデの木が、スタジオ付近の角に木陰を提供しています。この日本庭園は、東京有数の枯山水の1つとして認められています。